



“令和の入試”突破に不可欠な力とは

去る9月14日(土)、LAB07にて「愛知の高校入試説明会」を実施しました。当日は、愛知県の高入試のシステムをはじめ、大学入試も含めた昨今の問題の傾向と対策、内申について、通知表の見方、中学生の失敗例、小学生のうちから意識しておくべき点など、名古屋市東部地域の事情をふまえた内容を説明しました。小学生・中学生の保護者や、LAB07の小・中学生に対して、以下のような力を育む必要性をお伝えしました。



① 大学入試・高校入試も「長文化」「複合化」→正しい“読解力”“語彙力”が必要

高校入試は2017(平成29)年から問題数と配点が変わり、大学入試は2021(令和3)年から「大学入学共通テスト」に変わることになります。「数国に記述式導入」「英語に民間試験導入」などは昨今ようやくメディアでも報道されるようになっていますが、全科目に共通して「文章のみならず、問題文そのものの“長文化”」と「複数の資料の意図をそれぞれ読み解く必要があったり、問題自体に第三者が取り組んだという前提で、その第三者の考えや意見を評価したりするような、内容の“複合化”」が進んでいることは未だあまり知られていないようです。この傾向は、覚えた知識を身近な事例に変換して問われる傾向にある近年の高校・大学入試で全国的に起こっている事象であるといえます。正確に読み解くためには、当然のことながら読解力(特に換言、対比、因果関係を捉える力)と語彙力を要します。これは単純に、国語という教科を勉強させたり読書をさせたりすれば解決する、というものではありません。LAB07では、その日に学校やLAB07で学んだことを、送迎時の車内や帰った後の食卓、翌日の学校などでさっそく家族や友だちに対して使ってみよう伝えています。“学ぶ”の語源は“まねぶ”であるといわれているように、まずは真似る・模倣することで頭に入ります。たとえ使い間違えたとしても、その後正しい使い方を学び直せば問題ありません。

② ①にともない長時間化→“集中力”“メリハリ”のセルフコントロールが明暗を分ける

愛知県の高入試は朝9時から15時過ぎまで行われます。間に休憩や昼食をはさみますが、このときに「集中力」をどのように発揮するか、という点もまた大切です。「○時間ぶっ通しで勉強し続ける」のも「10分勉強して1時間休憩する」のもよくありません。愛知県のトップ校・人気校は総じて、自由な校風が多い反面、自主・自立の精神や計画性がないとみな一様に流されます。1時間勉強して5分休憩を○セット行う、というように、LAB07で行っている「やる時はやる、休憩するときは休憩する」というメリハリのある「自主学习」を習慣化する必要があります。このことは勉強だけに限りません。

③ 入試は問題作成者との「コミュニケーション」→常日頃から会話し、自ら考える経験・体験を

一般的に、「問題をよく読んでいなかった」ことによる間違いを「ケアレスミス」や「凡ミス」など呼びますが、LAB07では「問題作成者の出題意図を汲めない、コミュニケーション不足」とであると伝えていきます。この対処法としては(①の対処法にも共通しますが)、例えば親子で会話をし、何気ない事象に「なぜ?」と考え、辞書や百科事典・ネット検索などで自ら探究する、ニュースについて自分の意見を論じる、実際に行動してみる、などの双方向的体験・経験が必要です。一方的に与えれば与えるほど、子どもは考えなくなり、行動しなくなります。普段から周囲とのやりとりを活発にすることで、知的好奇心が育まれ、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を豊かにし、結果として学力が身につくのです。